



The Supporters Times

サポーターズタイムズ



衆議院議員 秋葉賢也 政策・活動レポート

現地現場主義で、被災地に寄り添う

復興大臣就任から、早くも1か月半が経ちました。今までは初当選以来、毎週金曜日の夜には必ず仙台に戻って、月曜日の朝に街頭演説をしてから東京に出るという生活パターンでした。それがなかなか地元に戻れなくなったばかりか、28年間ずっと続けてきた恒例の朝の街頭演説が出来なくなり実に歯がゆい限りですが、もちろん在任中は被災地の現場優先で取り組んでまいります。

実際、これまでに、福島、宮城、岩手の25市町村を訪問しました。双葉町だけでも既に三回お伺いしました。訪問先では、現地の状況を自分の目で直接確認させていただくとともに、様々なご要望をいただいているところです。地域のなりわい再生、帰還や移住定住の促進に向けた生活環境の整備、震災の経験の伝承など、地域ごとにさまざまな課題があることを、改めて実感しております。とりわけ福島は中長期的な対応が必要不可欠です。これからも、時間の許す限り、現地に足を運び、地域の生の声をお伺いさせていただきたいと考えています。

9月16日には、総理のほか、全閣僚がメンバーとなる「復興推進会議」を、就任後初めて開催しました。この中で、創造的復興の中核拠点として来年4月に設立する「福島国際研究教育機構」の立地場所を決定するとともに、その略称をF-REI(エフレイ)とすることと決定しました。F-REIは、福島県の浪江町に立地することとなりますが、いわばナショナルプロジェクトとして整備するものであり、オールジャパンでのイノベーションの創出、経済成長、さらには国民生活の向上に貢献することを目指して取り組んでまいります。

「二つの風」、すなわち、風化と風評との戦いについては、就任当初に私から指示をし、有識者会議として「持続可能な復興広報を考える検討会議」を立ち上げることにいたしました。

風評対策等については、復興庁をはじめ、政府として様々な取り組みを実施してきたところではありますが、そのうえで、人々により受け入れられる情報発信の手法としてどのようなものが考えられるか、有識者の皆様から忌憚のないご意見をいただければと考えています。

第1回の会議は、10月3日に行われ、その後も複数回の議論を行ったうえで、年明けにも一定の取りまとめを行いたいと考えていますが、会議を通じて得られた有益な知見については、取りまとめを待たずに準備が整い次第実施するなど、実践主義でやっていきたいと考えています。

27日には、安倍元総理の国葬に、閣僚として参列させていただきました。改めてこれまでの御功績に対し感謝するとともに、心よりお悔やみを申し上げます。

引き続き、現地現場主義を徹底し、職務に邁進してまいります。御支援御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



復興大臣
福島原発事故
再生総括担当

秋葉賢也

確かな実現力! 秋葉賢也は走り続けます!!

活動報告

— Activity Report —

食料安定供給・農林水産業基盤強化本部



官邸で開催された「食料安定供給農林水産業基盤強化本部(第1回)」に出席。

秋葉復興大臣は、9月9日首相官邸で開催された『食料安定供給・農林水産基盤強化本部第1回会合』に出席。会議では、ロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギー価格や食料品等物価上昇が続く中、岸田総理より、農林水産大臣を中心とした全閣僚に対して、食料品の物価高騰に緊急に対応する、『緊急パッケージ』を策定するよう、指示を承りました。会議出席後、秋葉大臣は「復興大臣として、被災地の食糧安定供給確保に必要な施策を緊急に策定して参りたい」と、意気込みを語っておりました。

河北新報 9月24日 2面より

処理水海洋放出への理解醸成 「丁寧かつ継続的に努力」



福島第1原発を視察する秋葉復興相(右)＝東京電力提供

復興相 就任後初、第1原発視察

秋葉賢也復興相は23日、就任後初めて東京電力福島第1原発を視察した。終了後、報道陣の取材に応じ、福

島第1原発の処理水海洋放出に関する理解醸成について、「先送りできない重要な課題だと認識した。風評被害を発生させないよう政府一丸となって取り組んでいく」と強調した。政府は来春を目標に処理水を海洋放出する方針を掲げているが、県内外から反対意見や新たな風評の発生を懸念する声が相次ぐ。秋葉復興相は「科学的根拠に基づく正確な情報発信が理解につながる」とし、「丁寧かつ継続的な取り組みを進め、努力を積み重ねていく」と述べた。

秋葉復興相は1〜4号機の原子炉建屋を見学して回った。

福島第1原発 23日の状況

原子炉建屋周辺のサブドレンと呼ばれる井戸からくみ上げ、浄化した地下水455トンを海洋に放出した。

宮城を視察 秋葉復興相

秋葉賢也復興相(衆院比例東北)は14日、東日本大震災で被災した宮城県女川町、南三陸町など県内の沿岸自治体を視察した。

南三陸町では町職員ら43人が犠牲となった防災対策庁舎のある震災復興祈念公園を訪れ、佐藤仁町長から復興まちづくりの現状や10



献花後に佐藤町長(手前中央)から復興状況の説明を受ける秋葉復興相(同左) 南三陸町の震災復興祈念公園

福島県 訪問



竹谷復興副大臣と福島県を訪問し、新地町で大堀町長に就任挨拶をした後、浪江町で福島国際研究教育機構の候補地を視察しました。その後、福島市で内堀知事と面談し、福島国際研究教育機構の立地に関する福島県の意見等を聞きました。

岸田総理大臣 同行

岸田総理大臣の福島県訪問に同行しました。今回の訪問では、双葉駅東側に開庁した町役場新庁舎を視察し、浪江町では福島国際研究教育機構の立地予定地を視察しました。



岩手県 訪問

宮城県及び岩手県を訪問し、黙とうや視察等を行いました。また、岩手県釜石市で地元の水産会社の方々と意見交換をしたほか、宮城・岩手両復興局では職員に対して訓示を行いました。



写真は復興庁ホームページより引用

月1日ケランドオープン「道の駅さきさん南三陸」について説明を受けた。秋葉氏は視察後の取材に「各自自治体の献身的努力できれいなまちがづくりられたが、人口流出などの課題は残る」と指摘。「地元選出の大臣として被災地に寄り添い、なりわいの再生や心のケアの検証と充実に取り組む」と力を込めた。秋葉氏は石巻市の宮城復興局で職員に訓示したほか、東北の水産加工業者が集まる仙台市青葉区での展示商談会も訪れた。

産経新聞
9月3日
5面より

——東京電力福島第1原発の処理水の海洋放出にあたって、風評被害にどう取り組むか
「処理水の処分は先送りできない課題だ。風評対策に取り組むことが重要な局面に来ている。これまでも科学的根拠に基づいた情報発信を行ってきた。国民の理解を加速するため、(新設する有識者会議で) SNS (会員制交流サ

秋葉賢也 復興相

イト)などに詳しい有識者から効果的でよりの確に伝えていくためのアイデアを出してもらいたい。また、東日本大震災に対する関心が低調になりつつあり、風化対策も議論してもらおう」
——食品の輸入規制を続ける国や地域に対しては「エビデンス(科学的根拠)を積み上げて説得していくことが大事だ。私自身が輸



(飯田英男撮影)

入規制をしている国の責任者に根拠を示し、解除してもらおう、トップセールスのような形でトライしたい」
——帰還困難区域の住民の

帰還をどのように進めていくか
「将来的に帰還困難区域の全ての避難指示を解除して復興・再生に取り組む決意に変わりはない。2020年代にかけて(希望する)住民がすべて帰還できるよう、各自治体と相談しながら進めていく」
——震災の遺児や孤児への対応は

有識者使い処理水風評払拭

「(遺児・孤児は)家・屋敷に加えて肉親を一時で亡くした。(震災では)みんなが大変な思いをしたが、一番厳しいところまで突き落とされたのは遺児や孤児だ。両親が亡くなった孤児は岩手、福島、宮城の被災3県で243人、(父親か母親を亡くした)遺児が1564人いる。希望通りの進学・就職をしているのか、引き取られた親戚と良好な関係を維持しているのか、市町村の協力を前提にフォローアップを検討したい」(聞き手 中島康裕)

とことん 寄り添う姿勢

毎日新聞 9月13日 5面より

海洋放出説明尽くす

新閣僚に聞く

——東京電力福島第1原発の処理水について、風評被害をどう払拭するか。

◆(処理水の海洋放出を目指している)来春に向けて先送りできない重要な課題。国内外の理解と協力が極めて重要で、政府としても国民や関係者に継続的に丁寧な説明を尽くしていくことが重要だ。
——情報発信は欠かせない。

復興相 秋葉賢也氏(60)



||宮本明登撮影

◆復興相はこれまで科学的根拠に基づいた正確な情報や復興の進捗について、インターネットやSNS(ネット交流サービ)などの媒体を活用して発信するなど理解の醸成に取り組んできた。コンテンツをさらに魅力的にするためにSNSに詳

しい人やインフルエンサーにアイデアを出してもらおう。
——帰還困難区域で除染を先
行した「特定復興再生拠点区域」の範囲外の除染と帰還はどう進めるか。
◆将来的に帰還困難区域の全ての避難指示を解除して、復興に責任を持って取り組んでいく決意に変わりはない。自民党の東日本大震災復興加速化本部から、福島県大熊町と双葉町で来年度、一部の地域で除染に着手できるように取り組んでほしいという提言があった。復興相として前向きに検討するよう事務方に指示したい。
——就任記者会見では東日本

大震災で親を亡くした遺児らのフォローアップに取り組む考えを表明した。
◆遺児・孤児は家、屋敷に加えて肉親を一時で亡くした。一番大変な状況に置かれた人にとことん寄り添う姿勢を示していくことこそ、司令塔として復興相が意識しなければならない。政府や自治体の支援メニューが知られていないため利用されていないことが多い。岩手、宮城、福島3県の市町村に遺児・孤児と面談、調査してもらうことを検討している。面談を通じて支援制度についてアドバイスしてほしい。【聞き手・安藤いく子】
——随時掲載

現地現場主義

「秋葉賢也 サポートーズの集い ～2022～」開催



今年はゲストに高市早苗経済安全保障担当大臣をお迎えし、経済安全保障推進法案などについてご講演いただきました。当日お集まりいただいた皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

東北医科薬科大学で講義

秋葉大臣が非常勤講師を務めて約10年になりますが、今春はじめて医学部生が卒業しました。一期生の医師国家試験の合格率は96.8%、卒業生の67%が東北で地域医療を担っています。今後の活躍が期待されます!今回は医学部の2年生を対象に「行政からみた地域包括ケア」についての講義をさせていただきました。



郡市長より陳情



郡市長から蒲生のバイオマス発電所、国際センター駅前の複合施設等について陳情頂きました。秋葉大臣からは仙台育英の優勝記念パレードの実施やベルディの凱旋行進曲に匹敵する記念曲の創作等の検討をお願いいたしました。



**秋葉賢也
事務所**
www.akiba21.net

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈4-17-16
Tel 022(375)4477 Fax 022(375)0057
購読料 年額10,000円 編集 (株)アクトジャパン

タウンミーティング

(国政報告会)

10月28日(金) 19:00 **若林区** 荒町市民センター
(荒町86-2)

10月29日(土) 19:00 **泉区** 根白石市民センター
(根白石字杉下前24)

※感染予防対策等に留意して実施します。

東北大学の 大野総長と 佐々木副学長がご来訪

来春に仮事務所が開設される福島国際研究教育機構(F-REI)での具体的な研究提案を含めて「東北大学Fサイエンスパーク構想」についてご説明頂きました。山崎理事長とも連携し相乗効果を高めていきたいですね。



城南信用金庫の川本理事長がご来訪



大震災以来、被災地の復興支援に多大なご尽力を賜りました。また、全国信用金庫協会が中心となり、毎年被災地の物産振興フェアを開催頂いており、心より深謝申し上げます。

KENYA AKIBA GENCHI GENBA

\ ホームページ / \ Facebook / \ Twitter / \ Youtube / \ Instagram /



～ kenya's PLOFILE ～

- 昭和37年7月3日宮城県丸森町生まれ。寅年・蟹座・A型・180cm・70kg。
- 角田高校を経て、中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了(法学修士)、同法学研究科博士課程後期満期退学。
- (助)松下政経塾卒塾(第9期生 宮城県初)を経て、宮城県議会議員(3期)、総務大臣政務官、厚生労働副大臣および復興副大臣、衆議院環境委員長、内閣総理大臣補佐官などを務める。現在、衆議院議員(7期連続当選)、復興大臣・福島原発事故再生総括担当。
- 母校の中央大学商議員や保護司のほか、東北医科薬科大学講師、宮城大学講師、仙台青葉学院短期大学講師なども務める。

※ **お願い** 本紙「サポートーズタイムズ」を是非ご購読ください
⇒ お申込みは仙台事務所までお電話を !!

ハガキや切手、コピー用紙などを、是非、カンパ下さい!!